

ソフィー.ジェルマン素数 p_s とフェルマーの最終定理

東森秀朋 2021.11.09

要約

ソフィー.ジェルマンは、フェルマーの最終定理(F L T)それ自体を証明したのではなく、F L Tが成立するための条件について素数 p_s と素数 $(2p_s + 1)$ を用いて研究しました。しかし、指数が素数 p_s のフェルマーの等式にはF L Tが成立することをソフィー.ジェルマン当時の代数学により証明できました。以下はその概要です。

指数が素数 p_s のフェルマーの等式は、算術演算において成立するならば、素数 $(2p_s + 1)$ による剰余演算において必ず成立する。しかし、そのフェルマーの等式は、素数 $(2p_s + 1)$ による剰余演算において成立しても、算術演算において必ずしも成立しない。ただ、そのフェルマーの等式は、素数 $(2p_s + 1)$ による剰余演算において成立しないならば、算術演算において決して成立しない。

そこで、そのフェルマーの等式は素数 $(2p_s + 1)$ による剰余演算において成立しないことを証明することにより、そのフェルマーの等式は算術演算において成立しないことを証明する。

結果として、指数が素数 p_s のフェルマーの等式に対するF L Tの成立が証明される。

1. 始めに

指数が素数 p_s のフェルマーの等式は次のとおりである。

$$A^{p_s} + B^{p_s} = C^{p_s} \quad (1.1)$$

自然数 A , B 及び C は互いに素である。

$\left(\frac{Q}{R}\right)$ は自然数 Q を自然数 R で剰余演算したときの剰余である。

中央の表記が正しいが、右辺のように表記する。

自然数 R 自然数 S

$$\left(\frac{QS}{RT}\right) = \left(\frac{\left(\frac{Q}{RT}\right)\left(\frac{S}{RT}\right)}{RT}\right) = \left(\frac{Q}{RT}\right)\left(\frac{S}{RT}\right) \quad \left(\frac{Q \pm S}{RT}\right) = \left(\frac{\left(\frac{Q}{RT}\right) \pm \left(\frac{S}{RT}\right)}{RT}\right) = \left(\frac{Q}{RT}\right) \pm \left(\frac{S}{RT}\right)$$

2. 素数 $(2p_s + 1)$ による剰余演算の相補性

下記の2個の素数 $(2p_s + 1)$ による剰余演算は互いに相補的である。

自然数 X , Y , B 及び C は互いに素である.

自然数 B 及び C のいずれも素数 $(2p_s + 1)$ を含まない.

$$X = C^{p_s} - B^{p_s} \qquad Y = C^{p_s} + B^{p_s}$$

$$\left(\frac{X}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{C^{p_s}-B^{p_s}}{2p_s+1}\right) \qquad \left(\frac{Y}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{C^{p_s}+B^{p_s}}{2p_s+1}\right)$$

即ち, 以下に示すように, 一方の等式が成立しないときは他方の等式が成立する.

$$\left(\frac{C^{2p_s}}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{C^{p_s}}{2p_s+1}\right)^2 = 1 \qquad \left(\frac{C^{p_s}}{2p_s+1}\right) = \pm 1 \qquad \left(\frac{B^{2p_s}}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{B^{p_s}}{2p_s+1}\right)^2 = 1 \qquad \left(\frac{B^{p_s}}{2p_s+1}\right) = \pm 1$$

$$\left(\frac{C^{p_s}}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{B^{p_s}}{2p_s+1}\right)$$

$$\left(\frac{C^{p_s}-B^{p_s}}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{C^{p_s}}{2p_s+1}\right) - \left(\frac{B^{p_s}}{2p_s+1}\right) = 0$$

$$\left(\frac{C^{p_s}+B^{p_s}}{2p_s+1}\right) \neq 0$$

$$\left(\frac{C^{p_s}}{2p_s+1}\right) \neq \left(\frac{B^{p_s}}{2p_s+1}\right)$$

$$\left(\frac{C^{p_s}-B^{p_s}}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{C^{p_s}}{2p_s+1}\right) - \left(\frac{B^{p_s}}{2p_s+1}\right) \neq 0$$

$$\left(\frac{C^{p_s}+B^{p_s}}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{-1+1}{2p_s+1}\right) = 0$$

上記から判るように, 自然数 B 及び C のいずれも素数 $(2p_s + 1)$ を含まないとき, 次の等式(2.1)は, 自然数 C 及び B の如何に関わらず, 成立する.

$$\left(\frac{XY}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{X}{2p_s+1}\right)\left(\frac{Y}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{C^{p_s}-B^{p_s}}{2p_s+1}\right)\left(\frac{C^{p_s}+B^{p_s}}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{C^{2p_s}-B^{2p_s}}{2p_s+1}\right) = 0 \qquad (2.1)$$

3. 指数が素数 p_s のフェルマーの等式

3.1 自然数 C 及び B のどちらも素数 $(2p_s + 1)$ を含まないとき

上記等式(1.1)は次の等式(3.1.1)に書き換えられる.

そのとき, 下記等式(3.1.1)及び(3.1.2)を成立させる自然数 X 及び Y は必ず存在する.

前節の等式(2.1)からして, 自然数 X 及び Y のいずれかは素数 $(2p_s + 1)$ を含む.

自然数 X , Y , B 及び C は互いに素である.

自然数 B 及び C は素数 $(2p_s + 1)$ を含まない.

$$A^{p_s} = X = C^{p_s} - B^{p_s} \qquad (3.1.1)$$

$$Y = C^{p_s} + B^{p_s} \quad (3.1.2)$$

自然数 Y が素数 $(2p_s + 1)$ を含むとき、以下に示すように、等式(3.1.3)が成立しなければならない。

$$\left(\frac{Y}{2p_s+1}\right) = 0$$

$$\left(\frac{Y}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{C^{p_s}+B^{p_s}}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{C^{p_s}}{2p_s+1}\right) + \left(\frac{B^{p_s}}{2p_s+1}\right) = 0$$

$$\left(\frac{C^{p_s}}{2p_s+1}\right) = -\left(\frac{B^{p_s}}{2p_s+1}\right)$$

$$\left(\frac{X}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{C^{p_s}-B^{p_s}}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{2C^{p_s}}{2p_s+1}\right)$$

自然数 X 及び C は互いに素であるから、上記等式が成立するためには、次の等式(3.1.3)が成立しなければならない。

自然数 E は C と互いに素である。

$$X = 2E^{p_s} \quad (3.1.3)$$

反対に、自然数 X 、即ち、自然数 E が素数 $(2p_s + 1)$ を含むとき、以下に示すように、下記等式(3.1.4)が成立しなければならない。

$$\left(\frac{X}{2p_s+1}\right) = 0$$

$$\left(\frac{X}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{C^{p_s}-B^{p_s}}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{C^{p_s}}{2p_s+1}\right) - \left(\frac{B^{p_s}}{2p_s+1}\right) = 0$$

$$\left(\frac{C^{p_s}}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{B^{p_s}}{2p_s+1}\right)$$

$$\left(\frac{Y}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{C^{p_s}+B^{p_s}}{2p_s+1}\right) = \left(\frac{2C^{p_s}}{2p_s+1}\right)$$

自然数 Y 及び C は互いに素であるから、上記等式が成立するためには、次の等式(3.1.4)が成立しなければならない。

自然数 F 、 E 、 C 及び B は互いに素である。

自然数 F 及び E のいずれかは素数 $(2p + 1)$ を含む。

$$Y = 2F^{p_s} \quad (3.1.4)$$

以上のことから、等式(3.1.1)及び(3.1.2)は次の等式(3.1.5)及び(3.1.6)に書き換えられる。

$$2E^{p_s} = C^{p_s} - B^{p_s} \quad (3.1.5)$$

$$2F^{p_s} = C^{p_s} + B^{p_s} \quad (3.1.6)$$

そうすると、指数が素数 p_s のフェルマーの等式(1.1)が成立するためには次の等式が成立しなければならない。

$$A^{p_s} = X = 2E^{p_s} = C^{p_s} - B^{p_s}$$

しかしながら、上記等式を成立させる自然数 A は存在しない。

したがって、自然数 C 及び B のいずれも素数 $(2p_s + 1)$ を含まないとき、指数が素数 p_s のフェルマーの等式(1.1)を成立させる自然数 A 、 B および C は存在しない。

3.2 自然数 A 及び B のいずれも素数 $(2p_s + 1)$ を含まないとき

次の等式(3.2.1)及び(3.2.2)を成立させる自然数 U 及び V は必ず存在する。

自然数 U 、 V 、 A 及び B は互いに素である。

$$A^{p_s} - B^{p_s} = U \quad (3.2.1)$$

$$A^{p_s} + B^{p_s} = V = C^{p_s} \quad (3.2.2)$$

前節 3.1 と同様に、次の等式(3.2.3)及び(3.2.4)が成立する。

自然数 G 、 H 、 A 及び B は互いに素である。

自然数 A 及び B のいずれも素数 $(2p_s + 1)$ を含まない。

自然数 G 及び H のいずれかは素数 $(2p + 1)$ を含む。

$$A^{p_s} - B^{p_s} = 2G^{p_s} = U \quad (3.2.3)$$

$$A^{p_s} + B^{p_s} = 2H^{p_s} = V \quad (3.2.4)$$

そうすると、指数が素数 p_s のフェルマーの等式(1.1)が成立するためには次の等式が成立しなければならない。

$$A^{p_s} + B^{p_s} = 2H^{p_s} = V = C^{p_s}$$

しかしながら、上記等式を成立させる自然数 C は存在しない。

したがって、自然数 A 及び B のいずれも素数 $(2p_s + 1)$ を含まないとき、指数が素数 p_s のフェルマーの等式(1.1)を成立させる自然数 A 、 B 及び C は存在しない。

以上のとおり、指数が素数 p_s のフェルマーの等式(1.1)を成立させる自然数 A 、 B 及び C は存在しない。

4. 結論

指数が素数 p_s のフェルマーの等式は素数 $(2p_s + 1)$ による剰余演算において成立しないから、その指数が素数 p_s のフェルマーの等式は算術演算において決して成立しない。

それ故、指数が素数 p_s のフェルマーの等式を成立させる自然数 A 、 B 及び C は存在しない。

よって、指数が素数 p_s のフェルマーの等式に対してフェルマーの最後定理は証明された。

5. 参考文献

1.

<https://www.math.uci.edu/~ndonalds/math180b/6germain.pdf>.

2.

<https://www.math.mcgill.ca/darmon/courses/12-13/nt/projects/Colleen-Alkalay-Houlihan.pdf>

[1] "Sophie Germain." Encyclopaedia Britannica Online. Encyclopaedia Britannica Inc., 2013.

Web.

<http://www.britannica.com/EBchecked/topic/230626/SophieGermain/2647/Additional-Reading>.

[2] L. L. Bucciarelli and N. Dworsky, "Sophie Germain," *Studies in the History of Modern Science*, Volume 6, pp. 9-19, 1980.

[3] R. Laubenbacher and D. Pengelley, "'Voici ce que j'ai trouv e': Sophie Germain's grand plan to prove Fermat's Last Theorem," pre-print, 2010.

[4] L. Riddle, "Sophie Germain and Fermat's Last Theorem," Agnes Scott College, 2009.

<http://www.agnesscott.edu/Lriddle/women/germain-FLT/SGandFLT.htm>

[5] S. Singh, excerpt from "Fermat's Enigma: The Epic Quest to Solve the World's Greatest Mathematical Problem," October 1997,

<http://www.pbs.org/wgbh/nova/physics/sophiegermain.html>.

[6] A. Wiles, "Modular Elliptic Curves and Fermat's Last Theorem," *Annals of Mathematics*, Second Series, Vol. 141, No. 3, pp. 443-551, May, 1995.

<https://www.math.uci.edu/~ndonalds/math180b/6germain.pdf>.

References

- [1] Andrea Del Centina, Unpublished manuscripts of Sophie Germain and a reevaluation of her work on Fermat's last theorem, *Arch. Hist. Exact Sci.* 62 (2008), no. 4, 349–392. MR2415091
- [2] Jeremy B. Dibbell, *Ex Libri, Fine Books & Collections*, April, 2010.
- [3] Leonard Eugene Dickson, *History of the Theory of Numbers, Vol. II: Diophantine Analysis*, American Mathematical Society, Providence, 1999, pp. iv–v, 3–24. MR0245500
- [4] Ioan James, *Remarkable Mathematicians: From Euler to von Neumann*, MAA Spectrum, Mathematical Association of America, Washington, DC, and Cambridge University Press, Cambridge, 2002, pp. 47–58. MR1964301
- [5] Reinhard Laubenbacher and David Pengelley, "Voici que j'ai trouv e:" Sophie Germain's grand plan to prove Fermat's Last Theorem, *Hist. Math.* 37 (2010) 641–692. MR1964301
- [6] Guglielmo Libri, Notice sur Mlle Sophie Germain, *Journal des D ebats*, 18 May 1832.
- [7] DoraMusielak, *Sophie's Diary/A Mathematical Novel*, Mathematical Association of America, Washington, DC, 2012.